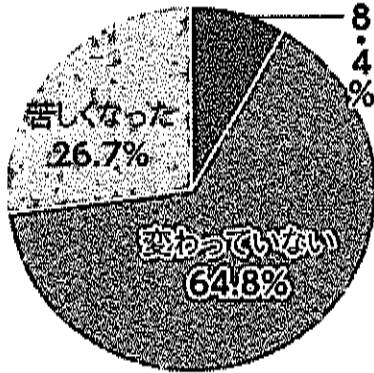


「ゆとり増した」8.4%

今年の中央最低賃金審議会
安小委員会に、最賃近傍で働く
非正規雇用労働者へのアンケート
ト結果が提出されています。昨
年の最賃引き上げで暮らしにゆ

最賃改定の 焦点

現行では生活できず



とりの出た人は1割に満たず、
7割以上が今後も引き上げを望
むらしい向きは？
昨年の最賃引き上げで
暮らし向きは？

み、その6割が「現在の最賃水
準では生計を維持できない」と
訴えています。

調査は、厚生労働省からの委
託で三菱UFJリサーチ&コン
サルティングが実施。今年5月
12日〜22日に、時給が最賃の1
・1倍未満の非正規雇用労働者
(1年以上勤務) 2866人か
ら回答を集約しました。

過去1年で時給が上がった
のは50・6%。時期は、最賃
改定の昨年10月(29%)が最
も多く、次いで春闘期の今年4
月(20・3%)でした。

最賃改定で時給が上がった人
の暮らし向きは、「変わってい
ない」64・8%、「やや苦し
くなった」26・7%、「ゆとりが増した」
8・4%が計8

・4%でした。

岸田政権は、昨年の最賃改定
の平均31円増(3・3%)は過
去最高だと胸を張りましたが、
物価高騰に追い付いていませ
ん。最賃近傍の労働者の生活苦
は変わらず、ますます苦しくな
った人もいます。

今後も最低賃金が引き上がる
べきかについて、「そう思う」
「ややそう思う」が76・5%に
のぼり、「あまりそう思わない」
「そう思わない」はわずか3・
2%です。

引き上げを求める理由は、
「現在の最低賃金額は生計を維
持するために十分な水準でない
から」が80%で最多です。全労
連の最低生計調査では、全国
どこでも時給1500円以上が
必要です。